

CONFIDENTIAL

介護現場と開発企業がつながる！ 介護テクノロジー導入・活用セミナー

株式会社テクリコ ヘルステック事業部 部長 坂本憲太

2026年2月25日

アジェンダ

1. 会社概要
2. MRIリハビリ機器「リハまる」の取り組み状況
3. 導入実績と運用課題
4. ヒアリング調査結果
5. AMED事業による研究開発について
6. まとめ

1. 会社概要

社名	株式会社テクリコ
創業	1994年(平成6年)9月1日
設立	2005年(平成17年)4月15日 有限会社テクリコ設立 2007年(平成19年)10月10日 株式会社テクリコへと商号変更
代表取締役	杉山 崇
本社	〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル23階
業務内容	ITコンサルティング ソフトウェアの設計・開発・運用 Webシステム開発全般 ソーシャルアプリ開発全般 Androidアプリ開発・iPhoneアプリ開発 メディカルヘルスケア分野におけるソフトウェア・システムの研究 開発、製造、販売及び運営
業許可	第三種医療機器製造販売業許可 医療機器製造業登録
主要取引先	日本電気株式会社 帝人株式会社 小林製薬株式会社 関西医科大学 慶應義塾大学 藤田医科大学 東京大学



会社情報

Company Information



ヘルステック事業

Healthtech Business Division



ミッション

Mission

健康寿命を伸ばし、
すべての人が楽しみながら
暮らせるための
サービスを提供する。

大阪・関西万博での展示

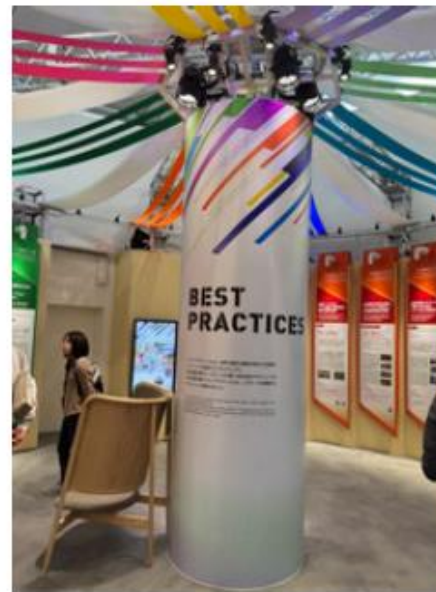
テーマ：いのち輝く未来のデザイン

大阪ヘルケアパビリオンで出展

(2026年8月12日～18日)

万博ベストプラクティスを受賞！

大阪から世界へ！MRで人類の健康を支えるプロジェクト



MRリハビリのリーディングカンパニー

MR(複合現実)技術のリハビリへの有効性に早くから着目して研究・開発を行ってきた当社は、MRリハビリのリーディングカンパニーとして医療機関・介護施設のリハビリ問題の飛躍的解決、VR医療の加速度的普及に取り組んでいます。

近畿経済産業局との関西でのVR/AR/MR活用促進の取組

ビジネスに効果的な
VR/AR/MR活用の手引書・事例集掲載



「VR/AR/MR活用セミナー」に
講師として登壇



ヘルステックベンチャーとしての活動

Plug and Play Japan FALL SUMMIT 2019



HIMSS & Health 2.0 Japan 2019
「高齢者のQOLを守るテクノロジー」

2. MRリハビリ機器「リハまる」の取り組み状況

MRリハビリテーションシステム「リハまる」

- Mixed Reality技術を用いたリハビリテーションシステム
- 現実空間の中に仮想のオブジェクトに対してインタラクションを行う

① どこでもできる

ベッドサイドや機器と組み合わせも可能

② 誰にでもできる

子供から高齢者まで使用できる
PT/OT/ST どの領域でも使用できる

③ 楽しくできる

ゲーム感覚で行える課題が多数







介護テクノロジー利用の重点分野（機能訓練支援）

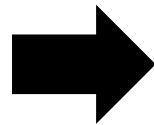


3. 導入実績と運用課題

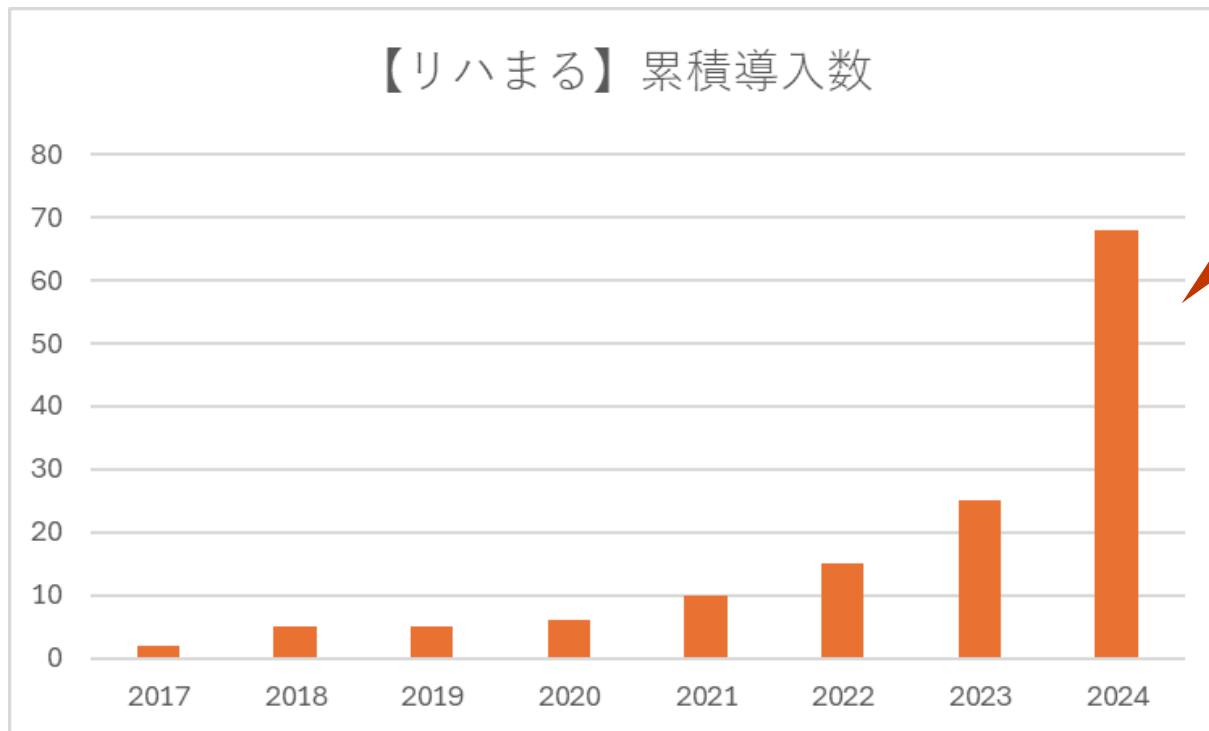
リハまるの導入実績

セラピスト目線で制作した、リハビリ支援機器

- ・準備に時間を要さない
- ・パラメータの幅が広い



重度～軽度な方へ多くの対象者へ使用が可能



2025年度

- ・デイケア 4件
- ・訪問（急性期） 1件

介護施設に関しても医療的な視点を持って質の高いリハビリテーションを提供する傾向の施設が増えてきている！！



[CONFIDENTIAL]

介護現場での課題

ICT活用の機会
が少なく
リテラシー不足

医療機関と
比べ専門的
な運用が難
しい…。

時間をかけ
ず、使いた
い…。

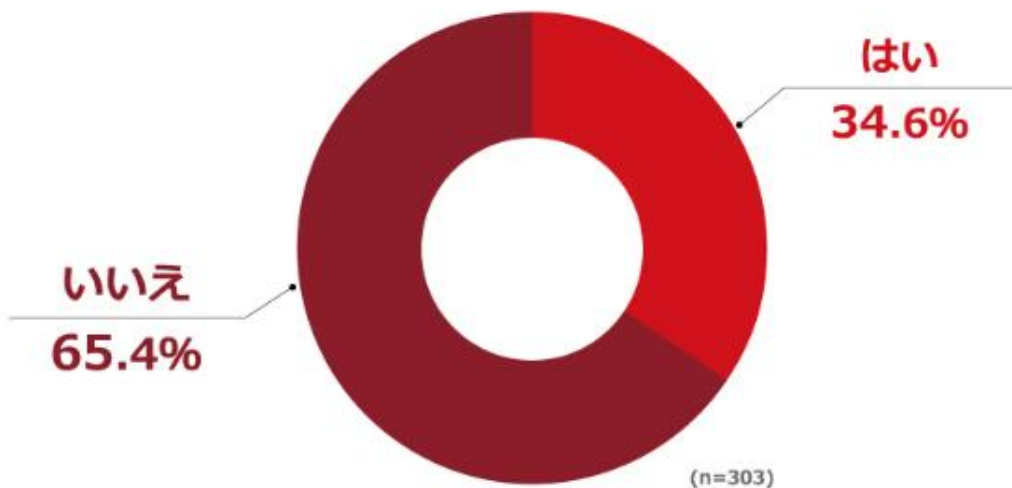
費用が捻出
できない



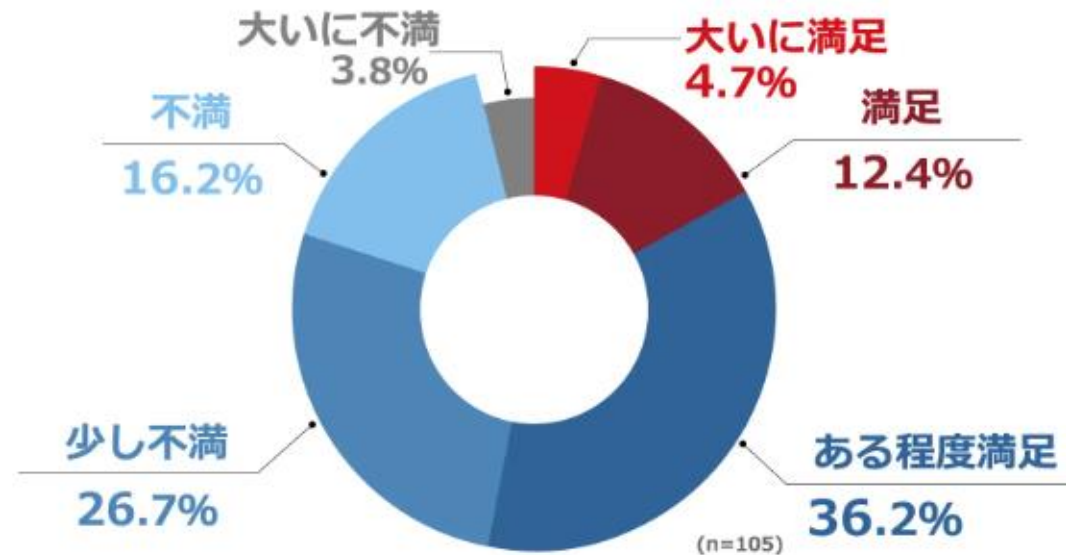
4. アンケート・ヒアリング調査結果

① ICTツールに関する調査

現在、あなたが働く施設ではリハビリ業務の支援に何らかのICTツールが導入されていますか。



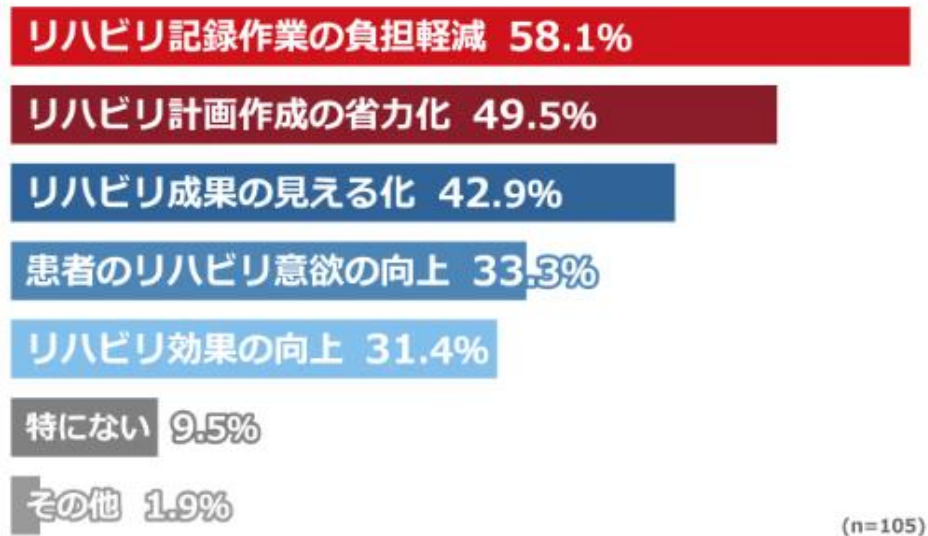
導入されているICTツールの満足度はいかがですか。



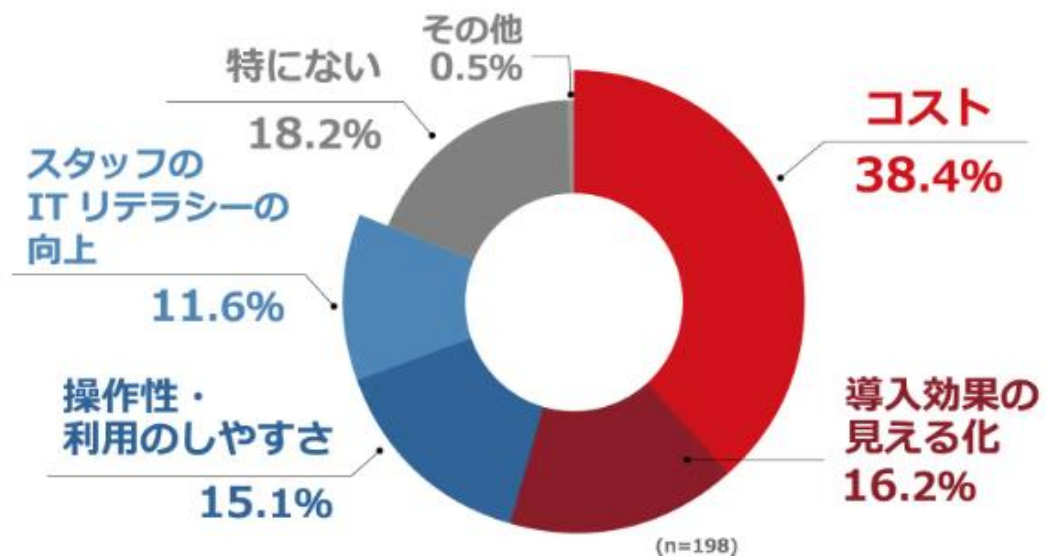
調査対象：医療施設や介護施設で専門職（セラピスト・介護福祉士等）としてリハビリ業務に従事する方

① ICTツールに関する調査

リハビリ業務を支援する ICT ツールに求めるものは何ですか。(複数回答可)



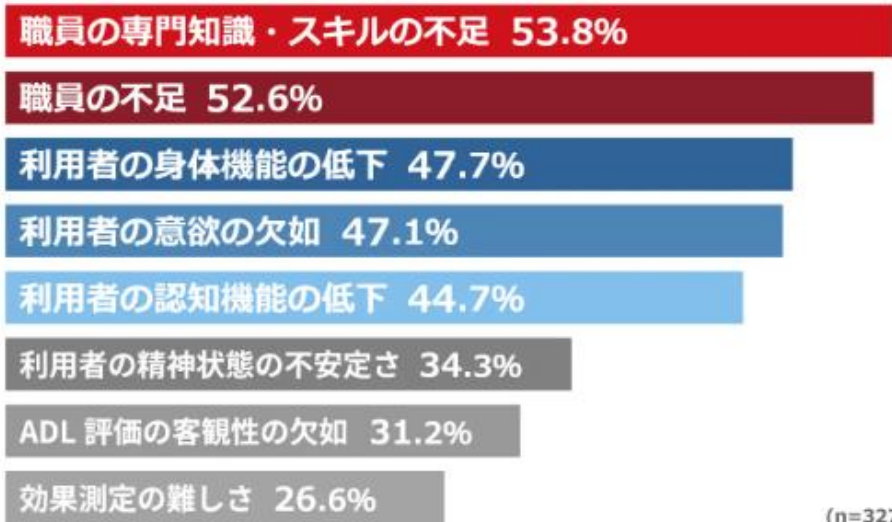
リハビリ業務を支援する ICT ツールを導入する上での最も大きい課題や障壁は何ですか。



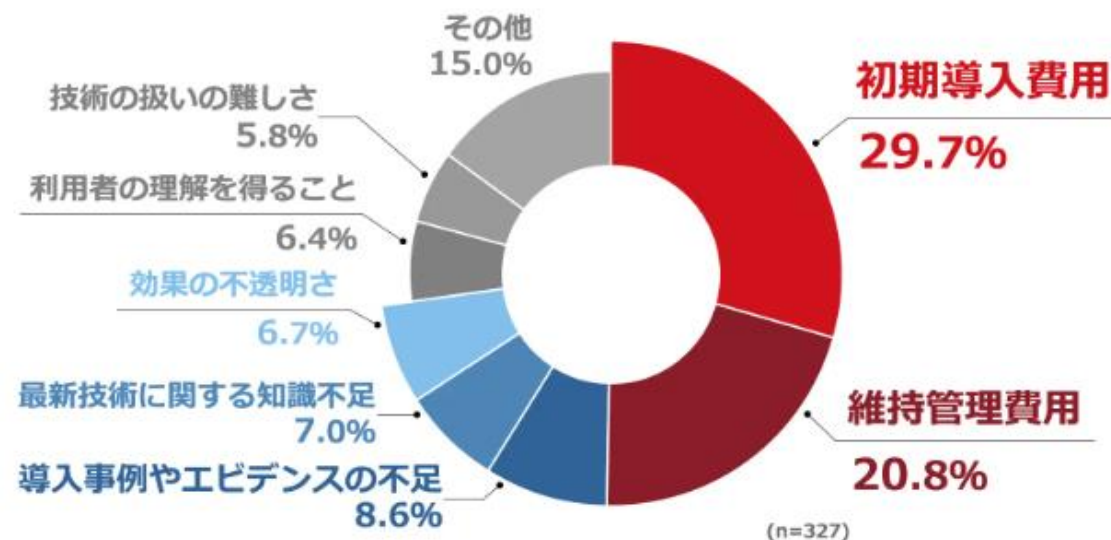
調査対象：医療施設や介護施設で専門職（セラピスト・介護福祉士等）としてリハビリ業務に従事する方

② 介護現場でのリハビリテーションに関する調査

利用者の ADL 向上に取り組む上での、
主な課題は何ですか。(複数回答可)



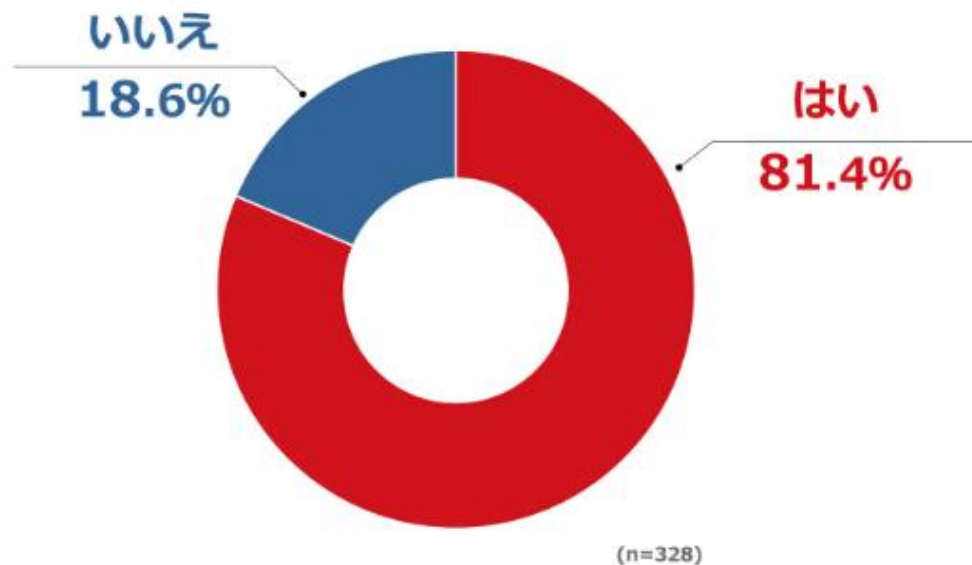
最新のリハビリテーション関連技術を
導入する上での、障壁は何ですか。



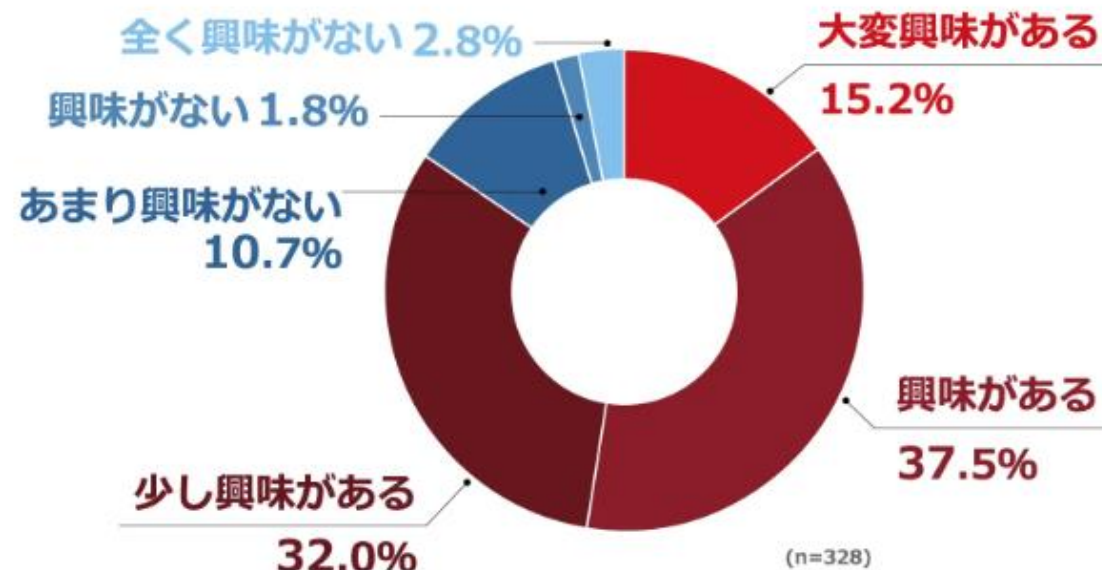
調査対象：介護施設の経営者または施設長（30～60代の男女）

② 介護現場でのリハビリテーションに関する調査

今後リハビリを受ける際に、最新技術を活用したリハビリを実際に体験してみたいと思いますか。



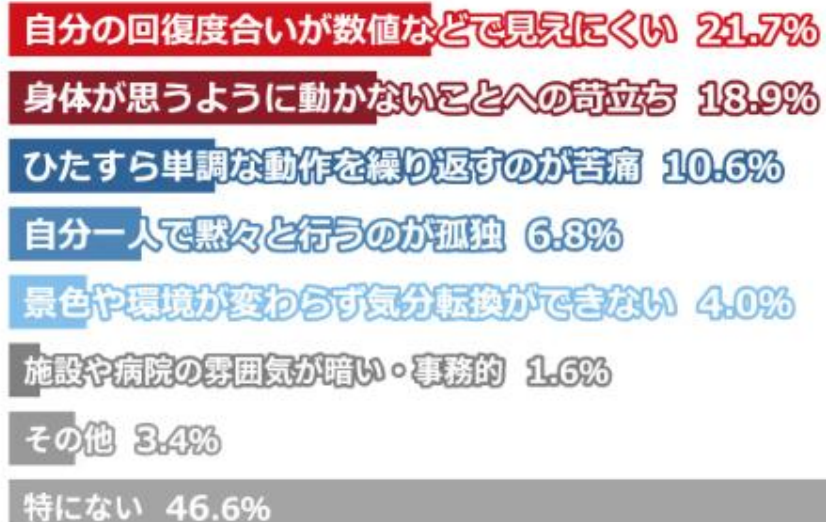
リハビリに最新の技術が使われていることについて、どのような印象を持ちますか。



調査対象：過去1年以内に何らかのリハビリを受けたことがある65歳以上の男女

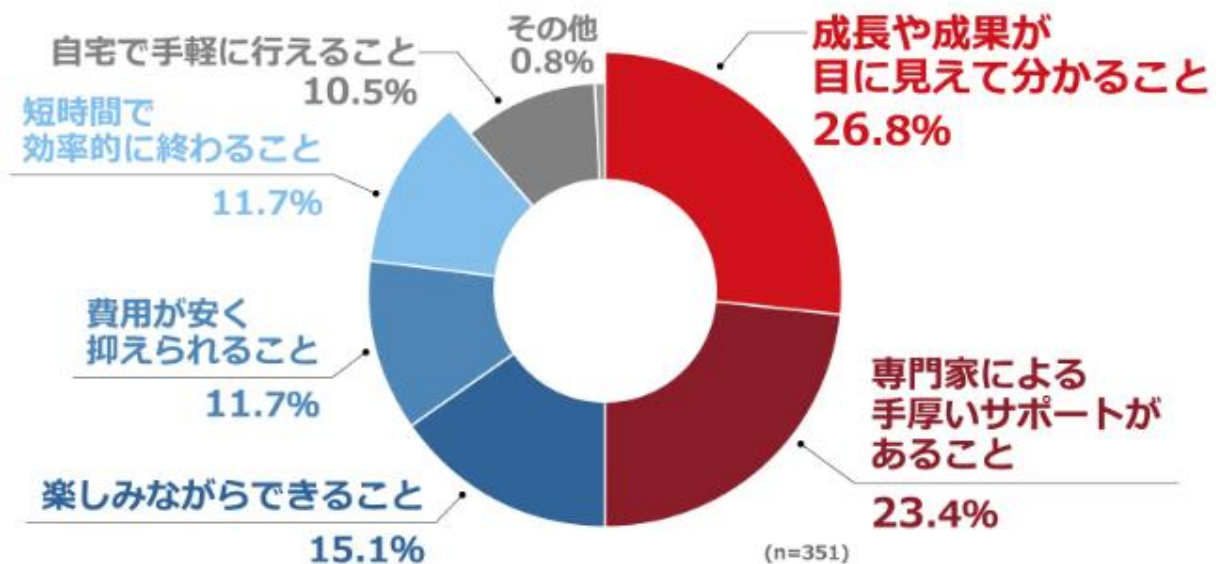
② 介護現場でのリハビリテーションに関する調査

あなたがリハビリを行っている最中に、
不満やストレスを感じた点は何ですか。(複数回答可)



(n=322)

リハビリを継続するために
最も重要だと思う要素は何だと思いますか。

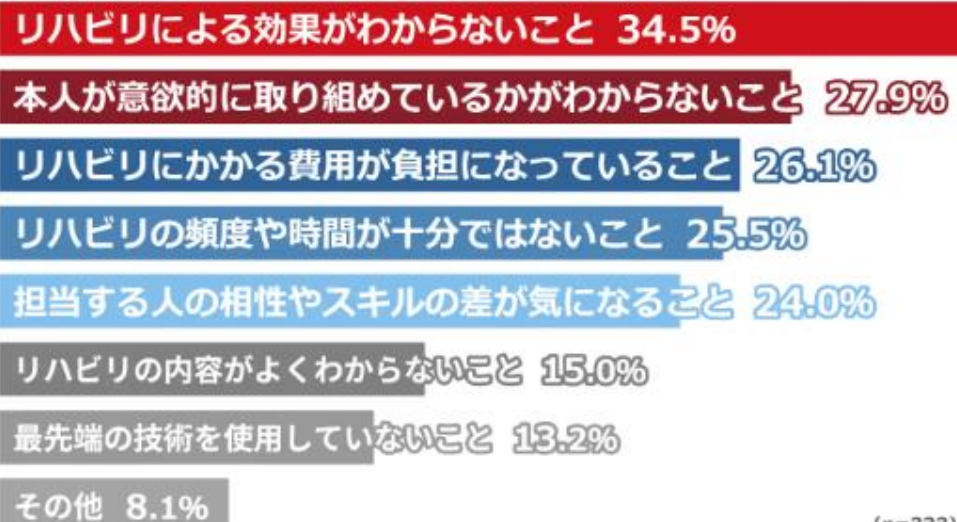


(n=351)

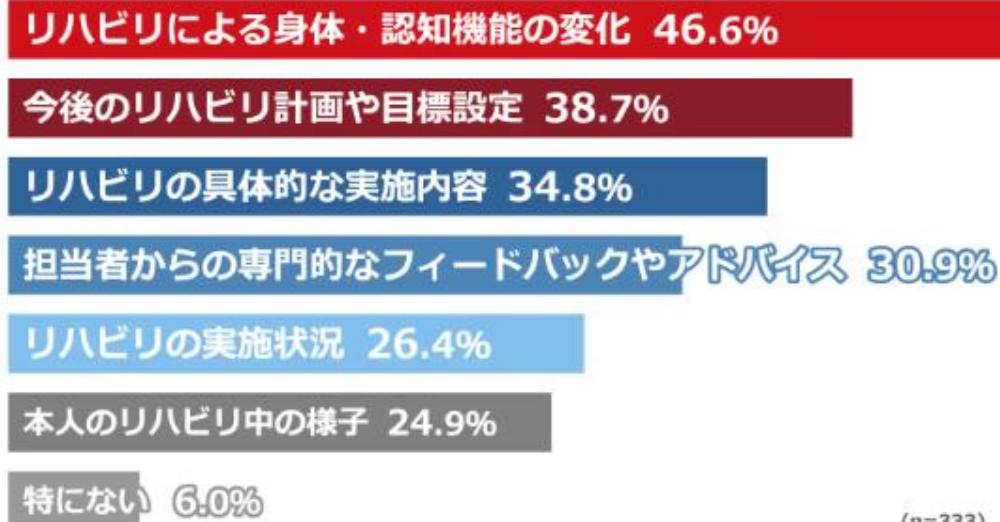
調査対象：過去1年以内に何らかのリハビリを受けたことがある65歳以上の男女

② 介護現場でのリハビリテーションに関する調査

あなたが、親のリハビリに関して不安や不満に感じることは何ですか。(複数回答可)



親のリハビリに関して、あなたが「見える化」してほしい情報は何か。(複数回答可)



調査対象：ビジネスケアラー（30～50代の男女）

ヒアリング調査

【介護施設の職員】

- ・紙カルテなので、日々のリハビリ記載やスタッフ間の申し送りなども時間を要した。コロナ禍以降もご家族の出入りや面会も制限していたので、ご家族へ日々の様子や普段のリハビリの様子を共有するのが重要とされていた。データや映像などあればご家族もイメージしやすかったと思う。法人全体、地域柄(県全体)、まだまだICTや機器の利用について「**使いこなせない**」、「**費用が高い**」など、マイナスなイメージが多いと感じる（セラピスト）。
- ・個別訓練の質や頻度が医療機関と比べて少なく、**画一的なメニューになりがち**。認知機能と運動を組み合わせた訓練が難しい（セラピスト）
- ・個別機能訓練に追われて、経過や家族への共有のための**資料をまとめる余裕がない**（セラピスト）。
- ・新しい機器の導入は重要だと思うが、**慣れるまで時間がかかりそう**（介護職員）
- ・病院と違って施設運営には波があるので、**高額な機器の導入が難しい**（管理者）

ヒアリング調査

【家族・支援者】

- ・毎日機能訓練ができないことは知っているのですが仕方がないと思うがリハビリ時間は不十分だと思う。
- ・機能訓練の時間や期間に制限があることについては、私たち家族もある程度は理解している。ただ、それでも少しでも身体機能や認知機能が維持・改善されてほしいという強い思いがある。現在、数か月に一度の情報共有の機会はあるものの、それだけでは日々の状態の変化が分かりにくく、もどかしさを感じる。専門のセラピストの方との個別リハビリの頻度を増やすことは難しいとは思いますが、看護師さんや介護士さんとの個人・集団活動等、体を動かす機会や、頭を使う時間が少しでも増えれば、日々の生活にも良い影響があるのではないかと考えている。可能であれば、家族でリハビリに関わることも考えている。私たち家族ができることがあれば、ぜひ教えてほしい。

調査・ヒアリングから見た介護現場の本質課題

現場（スタッフ）

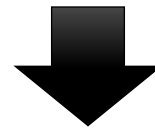
- ・ 記録・事務作業の負担が大きい
- ・ 機能訓練が画一化
- ・ 家族共有資料を作る余裕がない
- ・ ICT活用に時間がかかる

利用者・家族

- ・ リハビリ時間が不足
- ・ 日々の変化が見えない
- ・ 成果が分からず不安
- ・ リハビリにもっと関わりたい

施設運営・導入

- ・ ICT未導入施設が多数
- ・ 最大障壁はコスト
- ・ 初期費用・維持費が高い
- ・ 効果が見えにくい



▶ **結論：**（同時でも）訓練の個別性、自動評価、データ共有を簡単に使用できる仕組みを低コストで実現する必要！

5. AMED事業による研究開発について

AMEDでの開発内容

利用者に応じた難易度の自動調整機能

機器が自動評価を行ってくれる

家族や支援者が記録を確認できる

必要機能だけに絞り、低コスト化



AMEDでの開発内容

利用者に応じた難易度の自動調整機能

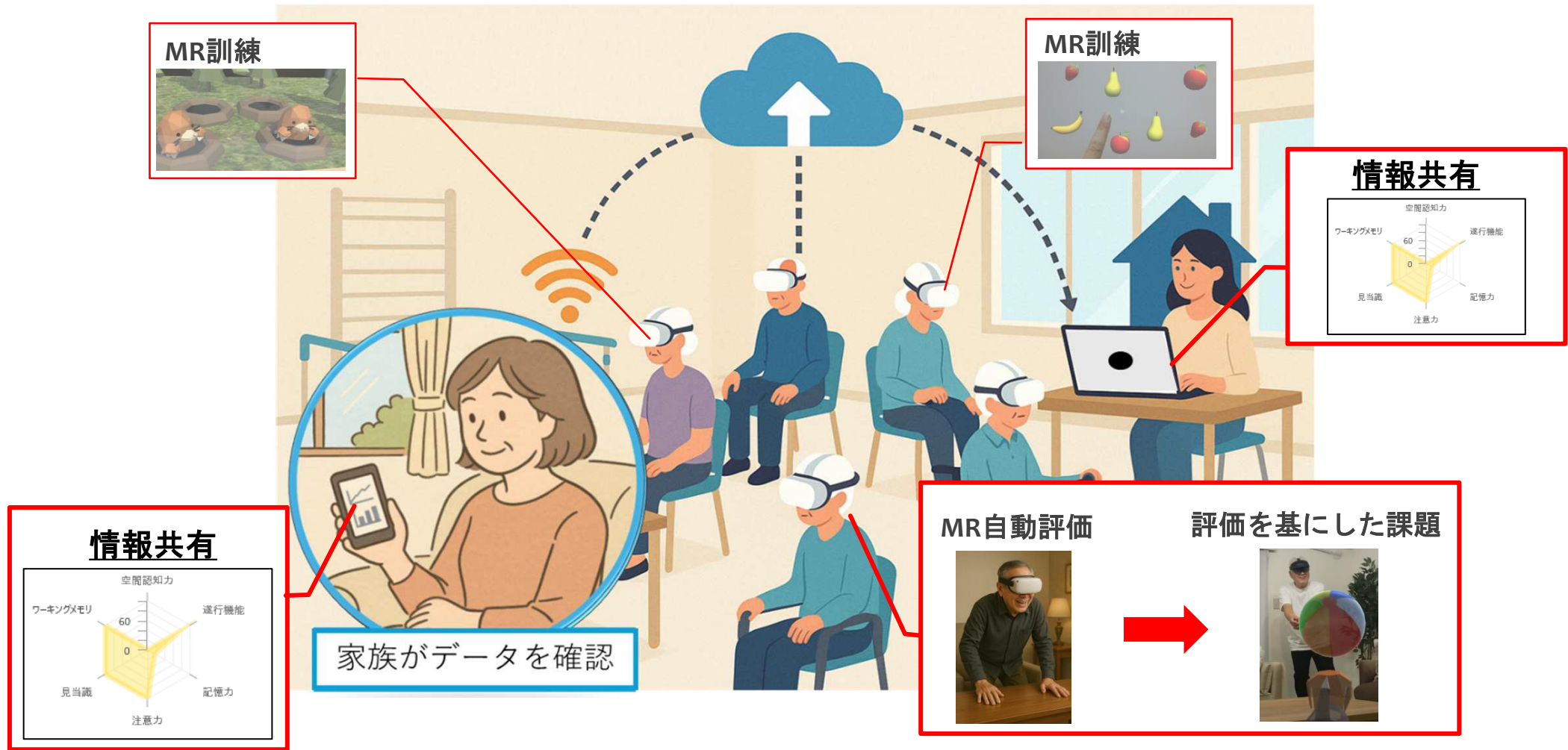
機器が自動評価を行ってくれる

家族や支援者が記録を確認できる

必要機能だけに絞り、低コスト化

「使われる」

AMEDでの開発内容



6. まとめと今後の展開

まとめ

介護現場では

- ・記録や評価業務の負担
- ・リハビリの個別性不足
- ・家族への情報共有不足
- ・導入コストの高さ

といった多くの課題が存在しています。

課題を解決すること“**ニーズ**”に沿ったテクノロジーの開発が必要

今後の展開

病院で使用されていた「リハまる」を
介護現場のニーズに合わせたモデルチェンジを行い
「リハまる Lite」として登場！
2026年3月発売予定！

デイケアでのサー
キットとしての使用
可能！

デイサービスのレ
クササイズとして
使用可能！

TECHLICO

リハビリテーション/機能訓練機器

リハまる
Lite
誕生

2026年3月発売予定



製品概要	
価格	オープン価格(複数プランあり)※弊社へお問い合わせください
機器	Meta Quest3、パソコン、Wi-Fi(パソコン、Wi-Fiは付属しません)
重さ	約515g(ストラップ含む)
サイズ	160mm(幅) x 98mm(高さ) x 184mm(奥行き)

※注意事項
*通常の運動や軽いエクササイズを行うのに適した機器です。ハードウェアの性能は、最新のVR機器と同等です。
*最新 firmware をインストールしてください。
*気分が悪くなった場合は使用を中止してください。

個別 & 集団リハをもっと楽しく、効率良く

リハまるLiteは、身体と認知の両方にアプローチできる機能訓練支援機器です。利用者の生活機能の維持・向上を支え、要介護度の維持・改善に役立つよう、介護現場で使いやすい設計となっています。訓練の実施に加え、結果を分かりやすく確認できる機能や、自動で難易度を調整する仕組みを備えているため、無理なく継続的にご利用いただけます。その結果、介護サービスの質を高めながら、スタッフの業務負担の軽減にもつなげることができます。

- 支援者の負担を軽減
- 訓練サービスの質を向上
- 利用者の生活機能の維持・向上をサポート

身体 / 認知機能を一緒に

身体と認知を組み合わせた訓練は、日常生活に近い形で取り組めるため、より実践的な機能訓練として活用しやすいです。

複数利用者様で同時訓練

個別のマンツーマン訓練から、複数による集団訓練まで対応可能です。施設の規模や現場の状況に合わせて、最適な形で運用できます。

自動で難易度調整

訓練成績をもとに難易度を自動調整でき、利用者一人ひとりに合ったレベルで無理なく継続できます。手間なく最適な訓練を提供できるようになっています。

TECHLICO 株式会社
テクリコ

体験デモ受付中

ホームページのお問い合わせ
フォームよりお申込みください
<https://rehamaru.jp>



https://rehamaru.jp/wp-content/uploads/2026/02/rehamaru_lite.pdf